

＜食料・農業・農村政策審議会畜産部会地方公聴会・現地視察の概要（熊本県）＞

平成21年10月29日（木）～30日（金）

【公聴会（29日）】

委員10名、生産者、関係機関・団体等36名が参加。



○ 公聴会での主な意見（抜粋）

- ・ 補助事業はいろいろあるが、要件のハードルが高くあてはまらない場合もある。所得補償が打ち出されているが、最低限の補償一本でいいから、安心して農業が続けられるようにしてほしい。
- ・ 資金を借りたくても保証協会の保証が得られずに借りられないケースがある。補助金をくれとは言わないので、融資制度を充実してほしい。
- ・ マルキン、補完マルキンについては、多額の発動がなされているが、それでも厳しい。補完マルキンは物財費の6割しか補てんされないが、これでは再生産できない。また、子牛の保証基準価格は、31万円が妥当なのか、これで再生産が可能なのか議論必要。
- ・ バター、脱脂粉乳などの乳製品や配合飼料などの生産資材の国際価格の変動等の外的要因により振り回されている現状。5～10年先が見える総合的な経営安定対策を作してほしい。
- ・ ハードの補助を行った所には、5年くらい経営指導できるようなソフト事業を組み込んでほしい。運営面での支援や地理情報システムを含めた支援が必要。機械の更新ができないコントラクターもあり、機械の更新に対する補助も必要。
- ・ 畜産農家の高齢化が進展しており、若い人が新規参入してくるような政策が必要。
- ・ 育種価を全国共通のものにしてもらいたい。また、個体識別番号で、と畜のデータが生産者にフィードバックされるよう義務づけるものとして制度化してもらいたい。

【現地視察（29～30日）】

○（株）アドバンス（菊池市旭志）

平成19年4月に菊池市旭志の酪農家20戸が、ほ場の集約・一元化と作業効率の向上を目的に設立し、20年2月に完成した「TMRセンター」。強い農業づくり交付金によりバンカーサイロをはじめとする施設等を整備（事業費258,832千円、うち交付金108,747千円）。TMRセンターは、4人で運営。

酪農家20戸全体で経産牛約970頭を飼養。構成酪農家のほ場を一元管理し、とうもろこし220haを作付。

堆肥散布（個々の酪農家）→播種（アドバンス）→収穫（コントラクター）→調製・配合（アドバンス）→搬送（運送会社）といった管理を実施。

以前は、とうもろこしとイタリアンライグラスの二毛作体系だったが、良質サイレージを通年利用するため、現在ではとうもろこしの二期作体系を実施。

構成酪農家個々の機械等の投資が抑制。購入飼料はスケールメリットにより安価となるものの、全体の飼料費はあまり変わらない状況ではあるが、他方で、日々の飼料調製作業の軽減により1～1.5時間ぐらいの余裕が生まれ、発情発見など牛群管理に専念できるなどのメリット。



本社看板



バンカーサイロ8基



とうもろこしサイレージ



飼料倉庫



自走式飼料混合機2台



TMRの搬出



搬送機2基



圧縮梱包機への搬送



圧縮梱包機2基



トランスバッグ



周辺のとうもろこし畑

○ (有)水上牧場（菊池市旭志）

以前は、経産牛36頭規模であったが、後継者の就農に当たり、新たに現在の農場を取得、規模拡大し経産牛約100頭。生まれた子牛を自ら肥育する乳肉複合経営（肥育牛約130頭）。

以前は後継牛をすべて外部（北海道）から導入していたが、高泌乳牛からの自家産の後継牛生産にも取り組んでいる。

牛舎はフリーバーン。搾乳牛1頭当たり乳量は、9,100kg。牛体に無理をさせず、乳量よりも繁殖連産性を重視し、生涯乳量を高める考え。

借地1.8haを含め6.6haの田畑に、とうもろこし、イタリアンライグラスを作付け。収穫は、コントラクターに委託し省力化。



フリーバーン



牛舎内を視察

○ 跡ヶ瀬牧野組合（阿蘇市跡ヶ瀬）

阿蘇地域は約22,000haの牧野面積を有し、160の牧野組合が管理、約7,000頭の牛を放牧。

跡ヶ瀬牧野組合は、昭和44年設立、総面積258ha、現在の組合員数は7戸。褐毛和種と黒毛和種約220頭を放牧。150頭は集落外からの預託牛であり、増加傾向。利用料は、組合員は100円/頭・日、員外は250円/頭・日。月に1回バイチコールによるダニ駆除や家畜保健衛生所による貧血検査を実施。

草地は、7～10年程度ごとに更新。組合員の褐毛和種では、牧草地、野草地、採草地の組み合わせによる周年放牧に取り組んでおり、分娩・種付け時の3か月だけ各農家に戻される。牧草・野草の一部を動物園にも販売している。

中山間地域等直接支払交付金は、4割を市がプールし、入会権者やボランティアによる野焼き、肥料の購入、パドックの設置などの施設整備に活用。



牧野組合看板



ASP周年放牧説明



簡易牛舎



連動スタンション



不凍水槽



放牧風景①



放牧風景②



放牧地

○ オオヤブデリーファーム (合志市須屋)

大藪委員夫婦と息子さんの3名で経営。育成も含めた乳用牛は約60頭。牛舎は繋ぎ牛舎。借地5.5haを含む8.3haの田畑でとうもろこし、麦を作付け。

混住化が進み、牛舎や堆肥の臭いによる環境問題への懸念もあって、地域住民とのふれあいと体験のできる経営を目指し、平成13年に酪農教育ファームとして認証。体験者は、年々増加しており、年間1,500人程が訪れる。体験を通じて、訪問者が牛乳や酪農に興味を持つようになっている。当日は、小学校3年生が酪農教育ファームを体験。

直売施設を設け、ソフトクリームやヨーグルトを販売。



牧場全景



搾乳牛舎



ジャージー種



育成牛舎



堆肥舎



教育ファームの様子



直売施設



乳製品の販売①



乳製品の販売②



対面販売

○ 瀧内牧場（菊池市原）

黒毛和種の繁殖雌牛約130頭、肥育牛約300頭を飼養する一貫経営農家。経営主夫妻と雇用従業員2名。

約20年前、褐毛和種肥育160頭から始め、徐々に黒毛和種肥育へ転換。肥育牛は、約100頭をE T市場（4ヶ月齢）から導入。出荷月齢28～30ヶ月。大阪市場への出荷が多い。繁殖部門は、農協の導入事業により母牛5頭の導入により開始。

一部一産取り肥育も取り入れながら規模を拡大。阿蘇地域への放牧も実施。平均分娩間隔12.5か月。

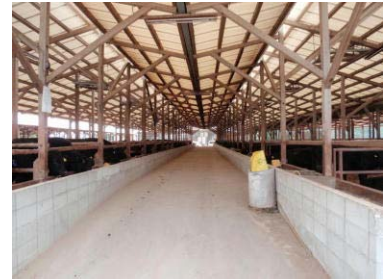
粗飼料生産は、夏作はミレット、冬作はイタリアンライグラスと10haを3回転。とうもろこしは、いのししによる獣害のため、作付けできない。稲わら30haと麦わら20haは、堆肥散布と交換で収集し、大牟田から稲わら15ha分を購入。その他、人参、みかんの搾りかす等も繁殖雌牛に利用。



繁殖牛舎



子牛牛舎（哺育ロボット）



肥育牛舎



堆肥は1段下の堆肥舎へ



削蹄風景